

令和2年度 屏風ヶ浦地域ケアプラザPDCAシート\_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

屏風ヶ浦地区は区内でも高齢化率が高い地区であり、また一人暮らし世帯も多い地域である。地形の関係で山坂や狭い道が多く、戸建が中心であるが交通の便が悪い。一方駅前についてはマンションが中心となっており、高台に住む高齢者は利便の良い駅近くへ転居する方もみられる。また、ケアプラザへ足を運ぶのが難しい方もいる。

汐見台地区は大型マンションが次々と建設され、若い世代の割合、年少人口が増加しているが、高齢者数が減っているわけではない。高齢者の単身世帯が多く、相談ケースも増加傾向である。

両地区に共通する点としては、地域を支えている活動や自治会町内会活動に若い世代の参加が減少している現状があり、担い手不足となっている。

ケアプラザとしては、両地区が取り組んでいる地域福祉保健計画や様々な取り組みに事務局の関りや行事参加などを通じて後方支援をしていく必要がある。また、既に活動をされている団体等に関して、その活動を把握することでより地域に根付いた関係となりえるよう、また活動団体同士の情報交換や繋がりについても支援していく必要がある。

高齢者を対象とする事業の実施場所をケアプラザだけではなく各地域へ広げる活動を通して、より多くの方にケアプラザが周知できるように働きかけていきたい。

また、ケアプラザの取り組みや活動、情報を各地域へ発信し、高齢者対象だけではなく多世代利用、相談できる場所であることの周知を継続し、小中学校生への実施の認知症サポーター養成講座等を通じても直接的なアプローチを行い、ケアプラザの更なる周知となるよう努めていく必要がある。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	屏風ヶ浦地区・汐見台地区で行われている会議やサロン等への参加や、自治会町内会等への個別のヒヤリングなどを行い、地域の情報や課題を把握する。それらをケアプラザ内部部門や区役所・区社協の関係機関と情報共有し、地域活動サービスデータベースへの最新情報を更新する。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	就労している障害者の居場所、コミュニケーションの場として同窓会や外出支援など、集まれる場の回数を増やす。共同作業で楽しめる内容を充実させ、楽しいだけでなく、仲間としての意識の向上が図れる内容を盛り込んだイベントを計画、実施する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	区域内の居宅事業所・訪問介護・訪問看護・通所事業所・地域の居場所やサロンなどに磯子区社会福祉士連絡会作成の消費者被害についての瓦版を送付等行うことで、地域の必要な情報発信へつなげていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	汐見台地区において、エレベーターのない高層階在住の高齢者等と支援者向けに介護予防講座を行う。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	「男性介護者のつどい」を実施する際、必要な方が参加できるよう居宅介護支援事業所等に周知していく。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響による緊急事態宣言の発令等により、重点的取組項目に挙げていた活動が実施できなかった。集う事、出向く事ができず、地域の主な行事が全て中止となり、かなり制限のある中、できる事があまりにも少なくなってしまった。

ケアプラザから地域に向けての情報発信については、感染症拡大防止により回覧版を中止していたり、また定例のサロンや茶話会等も中止になり、従来行っていた情報の発信ができなかった。

地域との協働や情報収集については、新型コロナウイルス感染予防のため定例の会議や行事が中止となり、地域に出向くことができない時期もあったが、電話やメール連絡、少人数での打合せ、小単位で実施されている集いの場等へ出向く事で情報収集を行うことができた。そのことで事業や催し等の開催方法や次年度に繰り越して実施することで、継続的に取り組める活動が行えたと感じている。

自主事業の実施についても、リモート開催や人数制限のための二部制、自由参加から予約制への変更など初めての試みであったが、次年度に向けて新たな形での開催を考える良い機会にもなったと捉えられる。

今年度の様々な弊害の中で未実施であったり途中で滞っている活動や事業については、工夫して行う事ができた事業や活動の例を参考に企画し直す事で、次年度でしっかりと実施できるよう取り組んでいきたいと思う。

区からのコメント

コロナ禍で出来ないことが多く、さまざまな取組が難しい1年だったと思います。そのなかでも、工夫をしながら行えた事業やリモート開催での会議、スマホ講座など新たな事業の実施など良い方向に展開できた出来たものもありました。また、小中学校への認知症サポーター養成講座を実施していただき感謝しております。エンディングノートの啓発にもリモート開催も取り入れていただき、ありがとうございました。今年度、実施できなかったことについては次年度以降、よりよい形での取組につながるよう検討をお願いします。特に、ICTを活用するほかに、リモート参加ができない方、地域ケアプラザに足を運べない方への啓発の工夫をしていただけると幸いです。

また、今年度はスイッチON磯子の地区別計画策定にあたり、ワークショップを通してさまざまな声を聞く機会となりました。今後とも地域の声を生かしながら地域ケアプラザ全体としての地域支援をよろしくをお願いします。